

漂流したごみを分別する白糠高校の生徒たち

# 4

## 漂流ごみについて考える



#### 白糠高校で「漂流ごみ調査」

白糠高校の2年生20人が「総合的な探求の時間」の 一環で漂流ごみの分別調査を行いました。生徒たちは 白糠漁協前で、漁網や釣り糸、空き缶などのごみを分 別。その後、学校で「ごみはなぜ漂着したのか」「減 らすためにはどうしたらいいのか」を話し合いました。 木村一さんは「こんなにごみが多いとは思いません でした。漂流ごみの問題は、自分には関係ないという のではなく、生活のことや環境のことを考えて見る目 を変えることが大切だと思います」と話していました。



## 郵便制度 150 年記念

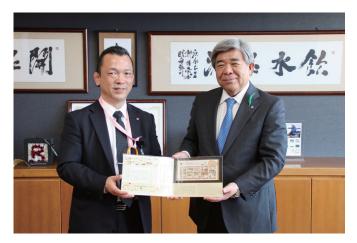
### 日本郵便が町に特殊切手を寄贈

日本郵便北海道支社から町に特殊切手「切手趣味週 間・郵便創業150年」が寄贈されました。

切手は、1871年(明治4年)に郵便制度が実施されて から今年で150年を迎える記念に発行されたものです。

この日は、白糠郵便局の藏本博幸局長が役場を訪れ、 棚野町長に特殊切手シートを手渡しました。

藏本局長は「150年を迎えることができたのは皆さ んのおかげです。これからも地域に愛されるよう努め ていきたい」と話していました。



特殊切手シートを手渡す藏本局長(左)



平仮名の勉強をする庶路こども園の5歳児



## 園児の「もっと学びたい」 の気持ちを育む

#### 幼児教育サポート事業開始

町では幼児期から「平仮名の読み」や「数と計算」 などの早期定着を目的に、認定こども園で専任講師が 授業を行う幼児教育サポート事業を行っています。

授業の1回目となるこの日は、庶路こども園の年長 組(5歳児・15人)11人がマジックボードやスケッチ ブックを使って平仮名を読む勉強をしました。

佐藤咲愛ちゃんは「楽しかった。もっとやりたかっ た」。講師の猪爪真央さんは「勉強が楽しいと思って もらえるような授業をしたい」と話していました。